

# 令和5年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（ 楊梅 幼稚園）

## 教育目標

「かかわりを楽しみ、よりよい生活を創り出す子ども」の育成

## 年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 子どもたちの遊ぶ様子から、子どもたちが幼稚園生活を楽しみ、自ら人、もの、ことにかかわろうとする意欲をみとることができる。また、このことを保護者と語り合い、同じ方向を向いて子どもの育ちを願う幼稚園であることは、今年度の成果であり、教育目標を達成できたとかんがえられる。下京雅小学校と連携をより深め、地域の就学前施設とも協働して、子どもたちの良い良い育ちを支える幼稚園であり続けていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 下京雅小学校と同敷地内で、連携を深め、共同研究を進めていることが、地域にも浸透している。地域の子どもを地域で育てるという、京都市の教育理念を具現化して行く為にも、地域と幼稚園と小学校がしっかりと連携し、子どもたちを温かく見守っていきたい。

## 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月23日	学校運営協議会
最終評価	2月19日	学校運営協議会

## （1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

### 具体的な取組

- 全教職員でのチーム保育により、子どもの育ちと安全、安心を保証する。
- 基本的生活習慣の確立に向け、環境を整え、家庭との連携を図る。
- 人権尊重を基盤にした互いのよさを認める集団作りを進める。
- 生活に必要な習慣や態度を子どもが身に付けることができるよう教師との信頼関係を基盤にしながら、よりよい生活を創っていく集団作りをする。
- 子どもの背景をしっかりと見取り、幼稚園全体で共有し取り組むとともに、関係機関との連携を進める。
- 子どもたちが夢中になって遊ぶことができる魅力的な環境を計画的に構成する。
- 友達と一緒に、よりよい考えを十分に試し工夫することができる遊びを子どもと共に創る。
- 積極的な校種間連携・接続で教育の質的向上を図る。
- 架け橋プログラムの取組を推進する。
- 地域の実態やニーズに合った子育て支援に努める。

### (取組結果を検証する) 各種指標

#### ○保護者アンケートの評価項目

- ・「子どもは幼稚園の遊びを楽しんでいる」
- ・「子どもはいろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいる」
- ・「子どもは友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる」
- ・「子どもは自分のことは自分でしようとしていますか」
- ・「教職員は話しやすく、相談しやすい」

#### 中間評価

### 各種指標結果

○アンケート項目について、保護者も教職員も高く評価している。

- ・設問「子どもは幼稚園の遊びを楽しんでいますか」  
回答「あてはまる・概ねあてはまる」100%
- ・設問「子どもは、いろいろなもの、こと、人との関りやふれあいを楽しんでいますか」  
回答「あてはまる・概ねあてはまる」100%
- ・設問「子どもは友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいますか」  
回答「あてはまる・概ねあてはまる」100%
- ・設問「子どもは自分のことは自分でしようとしていますか」  
回答「あてはまる・概ねあてはまる」84.2%
- ・設問「教職員は話しやすく、相談しやすいですか」  
回答「あてはまる・概ねあてはまる」98.3%

#### 自己評価

### 分析(成果と課題)

保護者アンケートにおいて、概ね教育目標を達成していると考えられる。保護者にも子どもたちの日々の姿から、幼稚園での遊びを楽しむ子どもの育ちや、人、もの、こと、とのかかわりを楽しむ姿を捉えていることから、教育目標や目指す子ども像を共通理解できていると考えられる。子どもの身辺自立については、保護者の回答に「あまりあてはまらない」が約15%あった。子どもが自信を持って自分のことを自分でしようとする気持ちが芽生えるよう支援を考えていきたい。

### 分析を踏まえた取組の改善

今後も子どもたちの遊びを通しての学びや、育ちを保障するため、環境構成や援助を考えていきたい。特に身辺自立について、3学年それぞれの発達に応じた援助を家庭と連携しながら進めていきたい。

### (最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

#### ○後期保護者アンケート

#### 学校関係者評価

### 学校関係者による意見・支援策

子どもたちが幼稚園での生活を楽しいと感じているのは、安心感があるのだと思う。行事等を参観し、教職員がコミュニケーションを良くとて、連携しながら保育を進めている様子が伺えた。これが子どもたち、保護者の安心感につながっているのではないか。

親の子に対する願は強く、もっとこうなってほしいという思いから、厳しい評価の出る項目もあるかもしれないが、幼稚園での具体的な子どもの姿を伝えることで、保護者も子どもの育ちに安心するのではないか。

#### 最終評価

### (中間評価時に設定した) 各種指標結果

#### ○保護者アンケートの評価項目

- ・「子どもは幼稚園の遊びを楽しんでいますか」  
回答「あてはまる・概ねあてはまる」 100%
- ・「子どもは、いろいろなもの、こと、人との関りやふれあいを楽しんでいますか」  
回答「あてはまる・概ねあてはまる」 98.4%
- ・「子どもは友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいますか」  
回答「あてはまる・概ねあてはまる」 95.2%
- ・「子どもは自分ことは自分でしようとしていますか」  
回答「あてはまる・概ねあてはまる」 95.2%
- ・「教職員は話しやすく、相談しやすいですか」  
回答「あてはまる・概ねあてはまる」 100%

#### 自己評価

##### 分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

子どもたちが幼稚園で遊びを楽しんでいることや人、もの、こととのかかわりを楽しんでいることを保護者と教職員が共感していることは、教育目標の達成と考えられる。また、幼稚園と家庭が同じ方向を向いて、子どもたちと向き合うことができていると考えられる。これは、幼稚園が幼児期に大切にしたい子どもの育ちや教育目標について、保護者や地域に発信していることが成果として表れていると感じる。子どもたちの身辺自立については、いつも課題に感じる保護者がいるが、幼稚園と家庭との連携をより深め、個別にかかわり共に考えていくことで、子どもの自立や自律につながると考えている。

##### 分析を踏まえた取組の改善

子どものよりよい育ちを願い、めあてを明確にすることで、子どもにとって楽しい幼稚園、保護者にとって安心できる幼稚園になる。めあてに向かって教職員と家庭とが共に心と力を合わせる幼稚園経営を目指していきたい。

#### 学校関係者評価

##### 学校関係者による意見・支援策

読書活動が人間形成や育ちに大きくかかわってくると考えられる。幼稚園で毎日の読み聞かせをしていること、絵本貸出を未就園児クラスからしていることは、大きな教育効果につながると考えられる。今後も続けて大切にしてほしい。

子どもたちは身の回りの大人に見守られている安心感をもつことがより良い育ちにつながる。地域としても見守り活動や、地域行事を通して子どもたちの育ちを支えていきたい。

## (2) 架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続について

### 具体的な取組

- ・下京雅小学校との合同研究組織において研究を推進する。研究保育、研究授業、エピソード研修、合同研修会などを実施する。架け橋プログラム研究ブロックの園としての取組を進める。

### (取組結果を検証する) 各種指標

#### 保護者アンケートの評価項目

- ・「子どもはいろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいる」

#### 中間評価

### 各種指標結果

- ・設問「子どもはいろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいますか」

## 回答「あてはまる・概ねあてはまる」 100%

自己評価	<b>分析（成果と課題）</b>
	保護者アンケートでは、すべての保護者が当てはまると回答している。このことから子どもたちは、人との触れ合いを楽しむことができていると考えられる。前期では、ハーモニーフェスティバルにおける、交流や経験を5歳児が自分たちの遊びに取り入れる姿も見られ、幼小の交流や連携が子どもの育ちに大きく影響していると感じられた。後期には3学年共に交流の計画がある。交流、連携を通して、かけ橋期の教育の充実に努力していきたい。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	交流活動を通して、児童にも児童にも育ちや学びにつながる経験を積み重ねていきたい。のために、教師同士が交流のめあてや具体的な姿からの学びを共有し、地域の就学前教育施設とも共有し、かけ橋期の教育の充実を地域ぐるみで進めていきたい。
	<b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b>
	○公開保育他、研究発表会の実施 ○交流保育の実施に向けた話し合いや交流後の振り返り
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> 地域全体で子どもを育していくという雰囲気を大切にしていきたい。地域で協力できることをしていきたい。児童が児童をはじめ、異年齢の人とかかわることで多くを学び、まねたり、あこがれを持ったりすることが期待される。今後も幼稚園と小学校の連携を深め、地域として幼小連携がすすむことを応援していきたい。

## 最終評価

自己評価	<b>（中間評価時に設定した）各種指標結果</b>
	○公開保育他、研究発表会の実施 ○交流保育の実施に向けた話し合いや交流後の振り返り
	<b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b> 後期の教育活動の中で、下京雅小学校、地域の就学前教育施設との交流、連携がより深まった。特に、5歳児、1年生の教員が一同に会し、子どもたちのより良い育ちをつなげるために、互いの思いを伝えあうことができた。また、全園児が小学校の全学級との交流を経験し、他者とかかわる楽しさを感じたり、自分なりにコミュニティを広げていったりすることにつながった。今後も、交流の時期、内容を精査し、子どもたちのより良い育ちにつながる交流、連携を深めていきたい。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> かけ橋カリキュラムの充実に向けて、交流や研究保育、研究授業の中で、子どもの育ちを見取り、幼稚園、小学校、地域の就学前教育施設の教員が大切にしたい子どもの育ちを共通理解し、学び合うコミュニティを築いていけるようにしていきたい。
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> 下京雅小学校の中に、京都市立楊梅幼稚園が在ること、小学校と幼稚園の連携が深まってきていることが、地域に浸透してきていると感じられる。このことが入園者数、子育て相談参加者数につながっていると考えられる。今後も地域の中で、下京雅小学校と楊梅幼稚園の教育について発信のお手伝いをしていきたい。

### (3) 預かり保育について

#### 具体的な取組

- ・幼児の心身の負担に配慮し、1日の幼稚園生活を見通し、心と体を落ち着けて遊ぶことができる環境の設定や人員配置を行う。

#### (取組結果を検証する) 各種指標

##### 保護者アンケート評価項目

- 「安心して子どもを預かり保育に参加させている」

### 中間評価

#### 各種指標結果

- ・設問「保護者は安心して子供を預かり保育に参加させていますか」

回答「あてはまる・概ねあてはまる」 89. 5%

自己評価	<b>分析 (成果と課題)</b>
	回答には「預かり保育に参加していない」と未回答が合わせて 10. 5% あった。参加させている保護者は、安心して参加させているので、目標を達成できていると考えられる。預かり保育の参加者が増えていることからも、預かり保育が充実していると思われる。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	預かり保育参加者が増えていくことも予想されるため、保護者や地域のボランティアを活用しながら、預かり保育の充実をめざしたい。
	<b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b>
	○預かり保育参加者数や参加者の感想等から検証する。
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> 引き続き、子どもも保護者も安心して預かり保育を活用できるようにしてほしい。地域で協力できることは、していきたい。

### 最終評価

#### (中間評価時に設定した) 各種指標結果

##### ○保護者アンケート評価項目

- ・「安心して子どもを預かり保育に参加させている」

回答「あてはまる・概ねあてはまる」 90. 3%

自己評価	<b>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</b>
	預かり保育を利用しているほとんどの保護者が安心して預かり保育を利用している。保護者の就労やリフレッシュを支え、子育て支援につながっていると考えられる。後期に入り、預かり保育参加者も増えている。今後も、子どもたちが喜んで参加できる預かり保育、保護者が安心して参加させられる預かり保育を目指し、預かり保育を充実させていきたい。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	預かり保育担当者を始め、地域の預かり保育ボランティアを活用し、預かり保育の充実につとめたい。

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	預かり保育が充実している幼稚園であることを地域で発信していきたい。

#### (4) 子育ての支援に関して

具体的な取組	(取組結果を検証する) 各種指標
	・未就園クラスの取組の内容と参加の保護者の様子、人数、日数

#### 中間評価

自己評価	各種指標結果
	ホームページやポスター、地域の回覧板、口こみなどで教育相談や幼稚園の雰囲気を知り、登録者数が増えている。
	分析 (成果と課題)
	夏季休業中の未就園児プール開放やお楽しみ会、土曜日の幼稚園説明会等の参加者が増え、幼稚園の存在や教育内容について、教育相談の内容について多く知つてもらうことができた。地域の小規模保育ルームとの連携も深まり、互いに地域の保護者を支えることが進んできている。
分析を踏まえた取組の改善	
今後も地域と連携を深めながら、入園や教育相談の連絡に丁寧に対応し、公立幼稚園の良さを知つてもらう。また、架け橋プログラムの拠点となっていることを発信し、育ちをつなげることで保護者の子育てを支えていきたいと考えている。	
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	
○教育相談や入園の問い合わせの際、どのような情報により問い合わせや入園につながったか確認する。	
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	地域の子育て広場とも連携し、子育て支援を進めていきたい。

#### 最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	○教育相談や入園の問い合わせの際、どのような情報により問い合わせや入園につながったか確認する。
分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題	
下京雅小学校の敷地内に楊梅幼稚園が在ることや下京雅小学校との連携が密に取れていること、3年保育、預かり保育を実施していること等が地域の子育て世帯に浸透してきている。ホー	

価 値	ムページやインスタグラムを見たという保護者も増えてきている。今後も公立幼稚園としての質の高い教育を発信したり、子育て世帯がより気軽に情報を得られるような工夫をしていきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 ホームページやインスタグラムを日々更新していくことを目指していきたい。
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 新入園児が増えてきていることは、地域としてとても嬉しい。いろいろなところで楊梅幼稚園の教育相談や入園を発信してきた。地域としても、発信力を高めていきたい。

## (5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

具体的な取組
・参観や懇談の機会を増やし、家庭との連会をはかるとともに幼児の発達や幼稚園教育への理解を深めることができるようとする。 ・地域の伝統文化（葵祭、祇園祭、扇子の絵付け体験）に触れる機会をつくる。
(取組結果を検証する) 各種指標
○保護者アンケートの評価項目 ・「子どもはいろいろなものやこと、人とのかかわりやふれあいを楽しんでいる」

### 中間評価

各種指標結果
・設問「子どもはいろいろなもの、こと、人とのかかわりやふれあいを楽しんでいる」 回答「あてはまる・概ねあてはまる」100%
自己評価
分析（成果と課題） 今年度も地域の伝統文化に触れる経験を5歳児が行った。5歳児は地域のお祭りにも出かけ、実際に地域の方と触れ合うことで、その経験を遊びに取り入れたり、保護者の方が子どもたちの姿から育ちを感じたりして、社会との触れ合いが幼児期の育ちに必要であることを感じた。
分析を踏まえた取組の改善 地域の公立幼稚園、架け橋プログラムの拠点として、小学校や、地域の就学前教育施設、地域全体と連携を深め、地域の子どもを地域で育てる風土を大切にしていきたい。
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ○保護者アンケートの実施
学校 関 係 者 評 価
学校関係者による意見・支援策 子どもたちの見守り活動をしていて、子どもたちがよりよく変わってきたと感じている。子どもたちが地域に親しみや安心感をもって過ごせるよう、地域で協力していきたい。

### 最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果
○保護者アンケートの評価項目 ・「子どもはいろいろなものやこと、人とのかかわりやふれあいを楽しんでいる」

## 回答「あてはまる・概ねあてはまる」 98.4%

自己評価	<b>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</b>
	小学校との連携の他、地域の就学前施設と連携をとり、子どもたちが地域の子どもたちとかかわり、つながりをもつ経験ができた。下京雅小学校との連携の中で、他者とかかわることの楽しさを子どもたちが感じており、その心の育ちを基盤として、他者とかかわろうとする力が芽生えてきていると感じる。地域の温かい雰囲気を感じながら育つ子どもたちが、今後も身近な社会とつながることに期待感をもてるようにしていきたい。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	幼児にとっての身近な社会と大切にしたい社会経験について考え、カリキュラムマネジメントを進める。
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b>
	地域の子どもは、地域で育てるという考え方で、今後も地域が協力できることをしていきたいと考えている。ぜひ、幼稚園から情報を地域に発信し、幼児教育の大切さを啓発していってほしい。

### (6) 教職員の働き方改革について

<b>重点目標</b>
見通しをもって勤務時間内に効率的に仕事に取り組み、優先順位をつけながら業務をこなす。
<b>具体的な取組</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>教職員一人一人の自らの働き方や資質・指導力向上への意識改革を進める。</li><li>会議の効率化、校務支援員との連携、行事などの役割分担など、日々の業務を見直し改善する。</li><li>ノーカンガルを守る。</li><li>長期休業中の年休取得日を増やす。</li></ul>
<b>(取組結果を検証する) 各種指標</b>
<input type="radio"/> 長時間勤務の時間数
<input type="radio"/> 年休取得日数

### 中間評価

<b>各種指標結果</b>	
長時間勤務は減り、定時退勤を意識する教職員が増えてきている。行事前や研究等で仕事量が増える時もあるが、教職員で仕事を分担し、助け合いながら、組織的に仕事を進めることができている。	
<b>自己評価</b>	<b>分析 (成果と課題)</b>
	保護者連絡アプリの導入により、事務の効率化を図れる部分が増えた。その時間を利用し、保育の準備や研修等に充てることができている。
<b>分析を踏まえた取組の改善</b>	
今後も保育の充実のための時間はしっかりと確保し、働き方改革が子どもの育ちにつながるような働き方改革を進めていきたい。	
<b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b>	
<input type="radio"/> 当時間勤務の時間数	

	○年休取得日数
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 子どもの育ちや学びにつながる働き方改革であってほしい。子どもファーストで進めてほしい。

#### 最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	○長時間勤務の時間数
	○年休の取得日数
自己 評 価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 大きな行事前には、準備等で長時間勤務になってしまふ日もあったが、ほぼ定時から1時間後までには、終業することができている日が多くた。年休は、代わり合って取得できている。十分なリフレッシュを図り、次の日の仕事に専念できている。 分析を踏まえた取組の改善 来年度も週一回の職場で必要な連絡を徹底すること、チームスを使っての会議による資料等配布や資料訂正の時間を省き、効率的な会議運営を心がけ、保育準備や研修、教材準備に時間を十分に取れるようにしていきたい。
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 幼稚園、小学校、地域が連携し、子どもたちのために働き方改革を継続していってほしい。